

まちこのまち 地域ワイド

弘前市の和徳町青和会が制作協力した扇ねぶたが8月、3年ぶりに開かれた山口県柳井市の夏祭り「柳井金魚ちょうちん祭り」に登場した。弘前市との交流をきっかけに柳井市観光協会(木阪泰之会長)が初めて企画した

もので、同市の観光名所「白壁の町並み」に合うように、小型の扇ねぶたが骨組みから制作された。多くの同市民らが「きれい」「すごい」などと声を上げながら、初めて見る弘前ねぶたに興味を示した。(稲葉智絵)

山口・柳井の夏祭りに弘前ねぶた初登場



両市は2019年2月、「北前船と金魚ちょうちん」をきっかけに交流を深

交流が結んだ扇に灯

和徳町青和会 制作指導協力 祭りルーツ鏡絵に

めてきた。

当初から交流に関わる和徳町青和会所属の自営業三上隆博さん(47)は昨年、木阪会長から「金魚ちょうちん祭り」で扇ねぶたを飾りたい。可能なら制作したい」と相談が寄せられた。骨組みからの制作を希望していたため、同会の協力を得て三上さんが図面を起した。

制作したのは、高さ3.5m、幅2.7mの小型扇ねぶた1台。観客を魅しめる扇ねぶたの仕掛けに魅了された木阪会長らの要望で、台座の回転、扇の上部が折り畳めるようにするな

和徳町青和会が制作協力した扇ねぶたが展示された柳井金魚ちょうちん祭り(8月13日)(柳井市提供)

ど、本場弘前と同じ仕掛けも施した。

三上さんは今年6月から、2週間に1回程度のペースで柳井市に通い、同協会会員や市民有志らに骨組み、色付け、紙張りなどを指導した。

7月中旬からは大鱈町の若手絵師松岡泰仙さん(24)が加わり、鏡絵などを制作。鏡絵は「金魚ねぶた」をルーツとする同市の郷土玩具「金魚ちょうちん」の始祖とされる熊谷林三郎を題材とした。さらに、松岡さんが下絵を描いた台座部分の色付けや紙張りを、市内の中高生が担当した。

木阪会長によると、8月6日の点灯式でねぶたに明かりがともると、制作に携わった人たちから拍手が湧き起こったという。ねぶた

は白壁の町並みの一角に展示され、祭り本番の同日13日に柳井駅前通りの本橋に登場。祭り終了後から同月31日まで市役所ロビーに飾られた。

金魚ちょうちんのルーツを知るきっかけにつながったとする木阪会長は「やっぴりよかった。制作したからこそ、弘前ねぶたのごさを実感した」と喜んだ。

三上さんは「柳井市の皆さんが本当によく頑張った。彼らの思いを実現することができてよかった」と話した。